



カケハシ・プロジェクト派遣プログラムの記録

対象：カケハシ・イノウエ派遣第4陣

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国へ日本の大学生および引率者計25名が派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2019年3月11日～3月18日の日程でプログラムを実施しました。

一行は、学校交流で日本の魅力紹介プレゼンテーション及び実演を行い、視察先では米国や日米両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて積極的に対外発信を行いました。

【参加団体・人数】

金沢大学 計25名

【訪問地】

米国（ワシントンDC、ヴァージニア州レキシントン）

2. 日程

- 3月11日(月) 【到着】
【オリエンテーション】
- 3月12日(火) 【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国大使館
【視察】全米日系米国人記念碑
【講話】日系人収容体験者による講話
- 3月13日(水) 【視察】ナショナル・モール
【講義】あしなが育英会 USA
【講義】米日カウンスル
- 3月14日(木) 【学校交流①】ジョージタウン大学
ワシントンDCからヴァージニア州レキシントンへ移動
- 3月15日(金) 【学校交流②】ワシントン&リー大学
- 3月16日(土) 【学校交流③】ワシントン&リー大学
- 3月17日(日) 【出発】
- 3月18日(月) 【帰国】

3. プログラム記録写真



3/12【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本
国大使館



3/13【視察】ナショナル・モール



3/13【講義】あしなが育英会 USA



3/14【学校交流①】ジョージタウン大学



3/15【学校交流②】ワシントン&リー大
学



3/16【学校交流③】ワシントン&リー大
学

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

今回の訪問で私が印象に残ったことはたくさんありますが、特に印象に残っていることが二つあります。一つ目は、第二次世界大戦中に抑留された日系米国人の歴史です。ジェラルド・ヤマダ氏の講義では、写真を見ながら貴重なお話を聞くことができました。ワシントン・アンド・リー大学で上映された映画では、映像を観ることで当時日系米国人の方々が受けた扱いを鮮明に知ることができました。これらの出来事は戦時中の日米の対峙に起因するものであり、現在世界平和に貢献している日本の国民として決して忘れてはいけないものだと思います。また日本人でこれらの出来事を知らない人に積極的にシェアしたいと思います。二つ目は、現地学生との交流です。米国における大学生の学生生活や授業について聞いたことはありましたが、実際にキャンパスを訪れることで実際の学生の生活を垣間見ることができました。キャンパス内に大きな寮があり、勉強に集中できる環境が整っていることには感動しました。日本語クラスに参加し、学生とお互いの国について語り合ったことは良い思い出です。現地学生や本学の他学部の学生との交流はこれからの学生生活を送るうえで非常に良い刺激になりました。今回このような素晴らしい機会をいただき、関係者の皆様にはとても感謝しています。この経験を活かすためにこれから自分が日本の魅力を発信するためには何をすべきかを考えて行動していきたいと思います。

◆ 大学生

今回のプログラムに参加させていただいて、アメリカについての知識を得るだけでは無く、日本についてもよく知り、考えさせられました。生きてい中で「なんとなく」でわかっていることがたくさんあり、日本にいる間、日本人同士ではなんとなく通じ合っていることを、敢えて言葉にすることの難しさがとても印象に残っています。その言葉にしにくいものこそが、文化なのかと気づきました。改めて言葉としては既存であった「文化」の存在を考え、また、教科書を読んでいるだけではわからなかったアメリカの雰囲気や文化を感じ、その違いを噛み締めてきました。また、このプログラムを通して、アメリカだけではなく日本のことにもより一層興味を持つようになりました。私は幸運にも日本の伝統文化を色濃く残している家系であったのですが、それがいかに面白く、価値のあることなのかをやっと理解することができ、自分がこれから自分のこの恵まれた状況を生かして日本の文化を保存して発信していこうと心に決めるきっかけになりました。今後は、継続してアメリカを含む全ての国外の友人達との仲を深め、他国の文化を理解できるように努めつつ、自国の文化の素晴らしさを正しく伝えられるように自分で勉強をしていこうと思います。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流参加学生

私は日本人学生達の振る舞いに感動しました。彼らは常にととても礼儀正しく、相手を尊敬していて、アメリカ人学生も見習うことができると思いました。例えば、金沢大学の何人かの学生を教会に連れて行った時のことでした。彼らが伝統的なキリスト教会

に行ったことがなかったことや、私自身が日本を訪れた時神社やお寺に訪問して楽しんだことを思い出し、案内することにしました。教会を歩いていて、彼らはステンドグラスや装飾に畏敬の念を抱いていて、私が大丈夫と伝えるまで写真を撮るのを控えていました。私はそれを見て、日本を訪れた際の自分の振る舞いはどうだったか見つめ直しました。カケハシ・プロジェクトに参加して、日本の文化について知るとともに、自分の文化についても知ることができました。私は日本の文化はアメリカと驚くべき程に異なっていると考えていましたが、異なっている点と似ている点があるということに気がきました。この経験は、今の世界が我々の曾祖父母・祖父母・両親の時代とかなり異なっていることや私たちは正しい知識を探るために世界に出ていく義務があることを気づかせてくれました。

◆ 学校交流参加学生

日本人学生はとても優れていて、また親しみやすかったです。彼らと出会い、お互いの文化と国を旅した経験を共有することで、絆を深めることができました。これからも彼らと繋がってほしいと思います。日本を訪れて日本の文化を見ただけでなく、我々アメリカの文化を共有できたことは、このプログラムのとても素晴らしい点でした。それによって我々はより両方の側面から、文化の交流をすることができました。

◆ 学校交流参加学生

彼らのポスターセッションはとても良かったです。SSA イベントで展示された彼らのポスターはとても美しく作られていて、また情報に富んでいました。ポスターで日本文化の象徴的で重要な側面を知るとともに、金沢での生活について知ることができました。また、交流プログラムを通して、日本人学生と個人的に繋がることができ、日本で学校に通うことがどのようなものか知ることができました。彼らがワシントン・アンド・リー大学を訪問した際の反応はとても面白く、ワシントン・アンド・リー大学が日本の学校とどう違うのかについて彼らの考えを聞くことができました。

6. 参加者の対外発信

	
<p>表敬訪問についての発信 (Facebook)</p> <p>ワシントン D.C. にある日本大使館を訪れ、そこで働く鈴木さんから海外の大使館での仕事に関する興味深いお話を聞きました。また、全米日系米国人記念碑にて日系アメリカ人であるジェラルド山田さんよりその歴史について学びました。2人から学ばせて頂いた貴重な経験は日本帰国後に皆さんに是非シェアしていきたいです。また、木曜日の大学訪問の際にはしっかりと日本についてプレゼンできるように準備したいです。</p>	<p>学校交流②についての発信 (Facebook)</p> <p>ワシントン・アンド・リー大学へ行きました。キャンパスツアーでキャンパスや学内チャペルを見学し、大学の歴史を学びました。また、日本語クラスの授業で hospitality のプレゼンを行いました。ワシントン・アンド・リー大学の学生は熱心に発表を聞いてくださって、興味を持ってくれたように感じてとても嬉しかったです。1日大学で過ごして、私はこの大学の穏やかな雰囲気や人々のコミュニティの広さがとても好きになりました。</p>

7. 帰国後のアクション・プラン

<p><u>アクション・プランの発表 1</u></p> <p>(外国向け) Facebook にカケハシ・プロジェクトでの体験談、アメリカで受けた感動、および日本（特に金沢）の観光地、文化、伝統、産業、金沢大学での出来事などについて英語記事を投稿し日米相互の魅力全世界に向けてアピールする。週3回程度の投稿を目指す。</p> <p>(国内向け) 金沢大学内で金沢大学生向けに開かれる留学促進イベントにて、学生スピーカー兼相談者として参加し、留学に興味がある人たち向けにカケハシ・プロジェクトでの経験やアメリカの魅力話し、アメリカに留学したい人を増やすよう試みる。学内留学イベントは4月から5月に開催される予定である。今後も同様のイベントに参加しアメリカに留学したい人を増やす。また、グループメンバーがサークル活動として観光地での英語ガイドボランティアを行っているが、今後もこの活動を継続・強化し、海外からの旅行者に観光地のよさを直接個別に伝えていく。</p>	<p><u>アクション・プランの発表 2</u></p> <p>金大志望の高校生を対象とした報告会を開催する。</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカの多様性（日米の比較含む） ・ 様々な人種や人種の共存、日本の大学内では見かけないような話題の発信（LGBTQ等に関連するポスター等） ・ 日本がさらに世界へ進出するために解決すべき課題 ・ 言語の壁、など <p>目的：私たちが学んだことをより多くの人に共有・発信することで、これからの対米、対日理解促進につなげていく</p> <p>方法：①プレゼンテーション（気づきや学びの発信） ②ディスカッション（①に対する感想や課題解決のためのアイデアなどを話し合い、共有）</p>
--	---